

銀行業務のイメージの変化

大学・経済学部・3年

期間：令和7年8月25日～29日（5日間）

私は大学の講義で、金融に関することを学びました。そこで金融業界に興味を持つようになり、実際はどういった業界であるのかを体験してみたいと考え、地元の銀行にインターンシップに参加させていただきました。

実際にインターンシップに参加して、印象的に残ったことは2つあります。

1つ目は、銀行の業務は金融に関することだけではなく、幅広い分野でお客様を支援していることです。取引先の経営課題に対しては融資や資金管理だけでなく、人事や研修、採用活動など多岐にわたる相談が行われていました。私自身もコンサルティング業務を体験し、事前情報が少ない中で何を質問すべきか、どの課題に重点を置くべきかを判断する難しさを感じましたが、行員の方々が日々行っているように、対話を重ねることで企業の実情を理解し、最適な提案を導き出す重要性を学びました。この経験を通して、銀行は単に金融取引を行う場所ではなく、お客様に寄り添い、さまざまな角度から課題解決を支援する役割を持つことを理解しました。

2つ目は、銀行内には多くの部署が存在し、それぞれの業務を経験することで、自分のスキルを幅広く伸ばすことが可能であることです。業務内容は金融知識だけでなく、コミュニケーション能力、問題解決力、情報収集力など、多面的な能力が求められます。部署も営業部だけではなく、裏でサポートする部署が多くありました。人事の方に自分の興味のある仕事を行うことができると聞き、自分のキャリアアップにつながると思いました。銀行は異動が多いことを知りましたが、新たな人と関わることができ、成長することができる環境にあることが魅力に感じました。

今回の体験を通じて、銀行に対するイメージも大きく変化しました。体験する前は固く厳しい印象を抱いていました。しかし実際には和やかで協力的な雰囲気の中、行員同士も連携しながら業務を遂行していました。また行員の働き方や対応を見させていただいた中で、専門知識もコミュニケーション能力も両方大事であることが印象の変化としてあります。知識だけでは、お客さまからの信頼を得ることが難しいことを学びました。

今後の大学生活では、今回の体験で学んだ知識や気づきを意識し、専門的な学びだけでなく、コミュニケーション力や問題解決力を高める努力をしていきたいと考えています。また、日常生活や授業、ゼミの活動においても、実践的な視点を持って学びを深め、新聞やニュースを見ることで情報を広く持つことを意識したいです。将来社会に出た際に役立つ力を身につけていくことを目指したいです。就業体験を通して得た学びは、単なる経験にとどまらず、今後の学習や成長につながる貴重なものであると強く感じました。

今回のインターンシップに参加したことで、金融業界について知ることができました。銀行にはさまざまなお客様がいて、単にお金に関する悩みだけではないということも学ぶことができました。さまざまな方法でお客様の悩みを解決するサポートができ、お客様と近く関われることに魅力を感じました。5日間という期間でしたが、貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。

コミュニケーション能力の重要性と臨機応変さ

大学・国際文化学部・2年

期間：令和7年9月1日～5日（5日間）

信用金庫でのインターンシップを通じて、私は主に2つのことを学びました。1つ目はコミュニケーション能力の重要性、2つ目は臨機応変さです。

初日と2日目は、インターンについての基本的な説明や金融業界、(実習先の)信用金庫についての具体的なお話を伺い、その後の2日間は支店で実習をさせていただきました。実習中は、外回りへの同行やATM・金庫管理など、信用金庫の業務を間近で体験させていただきました。その中で、冒頭に述べた2つの能力の大切さを実感しました。

まず、コミュニケーション力についてです。当初は営業職に主に求められる能力だと考えていましたが、実際には総合職・事務職を問わず不可欠であることを学びました。座学の際にもコミュニケーションの大切さについて触れられていましたが、営業店での実習を通じて、その重要性を実体験として理解することができました。特に、外回りに同行した際に伺った「仕事をする上で人との関わりは避けられず、その対象が内部か外部かの違いにすぎない」という言葉が強く印象に残っています。これまで事務職は人と関わる機会が少ないと考えていましたが、実際には内部でのやり取りが増えるというだけであり、その点に気付かされたことは大きな学びでした。

また、お客様との距離感が非常に近いことにも驚きました。信用金庫は他の金融機関と比べて地域との結びつきが深いためでもあります。職員の方々が自然に話題を引き出している様子を拝見し、コミュニケーションの有用性を改めて実感しました。お客様との信頼関係を築くことで、信用金庫の職員としてだけでなく、一個人としても信用を得ることができ、それが仕事全体に影響していくのだと学びました。

次に、臨機応変さについてです。どの職種においても求められる能力ではありますが、金融業はお金そのものを扱うため、特に高いレベルが必要だと感じました。実習を通じて、自分の想像以上に臨機応変さが求められていることを知りました。お客様ごとに必要とされることが異なるため、その要望を会話の中から汲み取り、適切に応じることの難しさを実感しました。また、数ある商品の中から信用金庫とお客様双方にとってメリットのあるものを提案するためには、利益が合致する点を見極める柔軟な対応が不可欠であることを学びました。さらに、全てが計画通りに進むわけではないため、臨機応変さに加え、事前にどれだけ周到に準備できるかという計画性の大切さも痛感しました。

4日間の実習を経て、最終日には振り返りとして成果発表を行いました。自身の学びを整理し共有することで理解を深めるとともに、他の参加者の意見から新しい視点を得ることができました。

この5日間のインターンを通じて、信用金庫や金融業について学んだことはもちろんのこと、それ以外にも多くの気づきを得ることができました。今回の経験で培った知識や学びを、今後の生活や就職活動にしっかりと活かしていきたいと考えています。

顧客のニーズに応えるために

大学・経済学部・3年

期間：令和7年8月18日～22日（5日間）

私が、金融業での就業体験を通して学んだことは、「顧客・地域の課題解決やニーズ」に応えるために、変化してきた結果が今の会社の形であるということだ。顧客は、個人から法人まで様々な人がいて、その数だけ課題やニーズがある。そしてそれに応えるために、様々な角度、業務から支援を行えるよう会社を増やしてきたと伺った。実際にグループ会社の業務内容や、実績などを説明していただき、地域の課題解決のために色々な取り組みをしているのだとわかった。

プログラムのなかでロールプレイングを行い、顧客へのヒアリング&資料から情報収集をし、融資や支援の企画・提案をするという流れを体験した。その際、顧客から話を聞き、様々な課題が出てきたが、グループ会社で色々な事業を行っているため、この課題にはこの会社のこの業務で支援できるのではないかと考えることができた。顧客に寄り添い、課題・ニーズを把握し、それに応えるということの難しさ、重要さを学んだ。これはどの業界においても必要なスキルであり、少しでもそういう経験を力をつけていきたいと感じた。

また、グループで物事に取り組むということの強みも感じる事ができた。自分にはない考え方や、自分だけでは見落としてしまっていた点など、グループで物事に取り組むことで、より良い提案をすることができたと思う。働き始めると、今よりもグループやチームで動くという機会が増えると思うので、学生のうちにゼミや授業でグループで動く際、自分の役割を自覚し、今までより濃いグループワークを行うようにしたいと感じた。

就業体験前と就業体験後で変わったことは、銀行の仕事への理解度である。単にお金を貸し借りするというだけでなく、貸すために現状を把握し、その際見えてきた課題やニーズにまで応えようとする。顧客に寄り添うための仕事であるという認識が変わった。私自身、人と関わる仕事がしたい、人の役に立つ仕事がしたいという思いがあったため、金融業、特に地方銀行への志望度が高まったと感じる。

今後、就職活動を行っていく中で、金融業以外も見ていくとは思いますが、今回のインターンシップで学んだこと、身についた力はどの業界でも役に立つものだと思うので、今回の経験を忘れずに、のばして、いかしていきたいと思う。

私自身、今回のインターンシップが対面インターンシップで初めての事業所で、緊張していたが、事業所の方々が実習生がリラックスできる空気・雰囲気づくりをしてくださったおかげで、グループワークでも良い発表ができたし、最大限に学びを得ることができたと思う。お忙しい中、受け入れてくださった事業所の皆様に感謝の気持ちで一杯である。

地銀の新たな役割

大学・経済学部・3年

期間：令和7年8月18日～22日（5日間）

今回のインターンシップには、「地方銀行の地域にもたらす効果について知る」という目標に加え、「インターンシップに慣れる」という目標を持って参加した。私は金融業界に興味があり、生まれ育った地元、山口県に貢献できることを就活の軸の一つにしている。そのため、広く金融業界について学びながら、経済面で地元貢献できる可能性を探る機会として、このインターンシップへの参加を決めた。

その結果、参加前は一般的な銀行業務のみを行う企業だと思っていたのが、地域の課題解決のために様々なグループ会社を準備し、お客様の多種多様なお悩みを全て一つの会社内でサポート、解決できる体制を整えた企業であることを知った。

5日間にわたるインターンシップでは、グループに属する銀行の事業内容や、多種多様なグループ会社の概要についての説明を受けた。プログラムは、6人1組のグループで進行し、グループワークを中心とした構成であった。

1日目は、軽いアイスブレイクの後、入社1年目の社員が必ず経験する「法人営業」について学び、ロールプレイングを行った。このロールプレイングは、事前に用意された企業の基本情報だけでは得られないリアルな情報を、ヒアリングを通じて直接社長から聞き取り、融資の可否を判断する内容であった。限られた時間で必要な情報を引き出し、疑問を相手方に分かりやすく質問することの難しさを実感した。

1日目は想像できる銀行員としての仕事を体験する機会であったが、2日目からは、主に地域の課題解決に取り組むグループ会社の説明が行われた。初めは、「なぜ銀行が人口減少による人手不足、高齢化による後継者の不在、空き家の増加などの非金融エリアに取り組むのか」と疑問に感じていた。しかし、地方銀行は地域に根差した中小企業や個人事業主を主な取引先としており、地域が元気でなければ銀行も立ち行かないこと、(就業体験先)活動エリアが社会課題の先進地域となっていることを知り、金融機関としてのノウハウと地域ネットワークを活かして、非金融領域の課題にも対応できるのは、地方銀行ならではの強みであると理解した。

そして最終日には、5日間の集大成ともいえるロールプレイングを行った。このロールプレイングでは、法人営業・グループ会社の事業内容の知識を用いて、飲食店のオーナーである取引先の社長にヒアリングを行い、相続や事業拡大に関する提案を行った。今回は、1日目の学びを活かし、「出てきた疑問を分かりやすく質問する」ことを意識してヒアリングを行うことができた。また、5日間同じグループで活動したことで、プロジェクトのチームメンバーのような感覚で意見を出し合いながらより良い提案を作り上げることができた。このように、プログラムを通して全体の復習ができる構成になっている点が非常に良かった。

最後に、今回のインターンシップでは、(就業体験先)の仕事を知り、(就業体験先)で働くことをイメージすることができた。また、「地方銀行の地域にもたらす効果について知る」、「インターンシップに慣れる」という目標も達成することができ、大変有意義な時間であった。